

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	メリーポピンズアトレ大森ルーム
施設所在地	大田区大森北1-6-16アトレ大森2 3F
法人名	社会福祉法人どろんこ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

畑活動での野菜の生長の不思議さを知り、子どもの主体的な食育活動につなげる

<テーマの設定理由>

小さいながらも、小学校の畑を借りて野菜を育てている。野菜はどうして実をつけていくのか、何故赤くなるのか、一つしかなかった野菜はどのようにして調理するかなど、子どもの興味関心から上記テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

4月子どもたちと相談しながら苗植え

5月雑草抜きや水やり

6月なった実の観察や子どもの感想を絵にする

7月実際に収穫し、切って中身を知る どのように食べるかを考える

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

活動の為に準備した道具

キュウリの苗、ナスの苗、ジャガイモの苗、小学校の畑（貸与）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

小学校の畑を借りて野菜を栽培し、野菜の収穫と調理を行いました
畑への訪問と収穫：畑へ向かい、赤くなったトマトやなすを収穫。
食育活動として：収穫したトマトとなすを包丁で切る作業に挑戦。
調理（煮込み）：切ったトマトをフライパンでじっくり煮込み、特製のトマトソースを作った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

栽培から調理という一連の流れの中で、子どもたちの心の動きや意欲に大きな変化が見られました。畑に行く道中では「なす大きくなってるか」「トマト赤くなってるか」「まだ緑だと思うな」と、畑の状況を具体的に想像しながら会話を楽しむ姿が見られました。到着して赤いトマトを見つけると、「トマト赤いよ！」と真っ先に友だちに知らせ、発見の喜びを共有していました。

また、1週間で生い茂った雑草を前に、まずは一人の子が「根の太い雑草が抜けた！」と達成感を見せました。それに触発され、周囲の子も競うように作業に取り組み、植物の成長環境を整える大切さを肌で感じることができました。

包丁を使う工程では、初めての体験に緊張しつつも、自ら「やりたい」と積極的に立候補し、真剣な表情で挑戦していました。ただ眺めるだけでなく、葉っぱの数、色、茎の伸び方など、植物の細かな変化に自ら気づけるようになり、お互いに教え合うといった共同作業の姿勢も育っています。キュウリの苗やジャガイモの苗も挑戦したが、うまく育たず枯れてしまっていたが「なんで枯れちゃったのかな？」と不思議そうな顔をして、子ども同士で対話をしていました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

本プログラムを通じ、子どもたちは「栽培・管理・収穫・調理」という循環を体験しました。この一連の流れは、植物の生長を慈しむ「生命尊重」の精神を育むとともに、困難な作業（雑草抜き）を乗り越えた先にある達成感を共有することで、集団としての連帯感を強める一助となりました。今後も、こうした「実体験を伴う学び」を深め、思考力と表現力のさらなる向上を支えていきたいと考えます。